2006 年度卒業論文発表会(2007.2.5)　レジュメ

「アグー」の創出と利用―琉球「在来豚」形成の歴史人類学的考察―

山口研究会 4 年　大川　優香

【研究概要】

現在、「アグー」と呼ばれている沖縄産の豚が全国で注目されている。

「アグー」は、沖縄産の新たなブランド豚として商品化された豚である。その由来は、14 世紀に豚が中国から導入されて以降、外来種との交配を繰り返し、その姿を変化させながらも常に「在来種」として認識されてきた豚にある。現在我々が食べることのできるアグーは、1980 年代に復元された「在来種」と現在日本で一般的に飼養されている西洋種との交配によって生まれたハイブリッドな豚だ。そのため「アグー」と呼ばれる豚の中には、様々な形態が見られ、品種としての定義は非常に曖昧になっている。このような品種交配によって生み出された「アグー」は、「琉球在来豚」と名付けられ、その伝統性を強調したマーケティングが行われている。

以上の現状を検討した結果、見えてくるのは、「アグー」は品種としてはハイブリッドであるが、その名付は「琉球在来種」としてのものであるという現状だ。この現状を理解するために、本研究では、文化や社会が『慣習と非慣習の絡み合い』によって変化していくプロセスを探求する歴史人類学的視点に基づき、品種改良に関わる養豚史と沖縄らしさのイメージ形成に関わる生活文化の中の養豚史の絡み合いの中に現在の「アグー」の由来をたどる。

【卒業論文目次】

序章:「アグー」の歴史人類学的考察について

1.「おきなわブランド」でのアグーの利用

2.多様な形態を含む「アグー」

3.歴史人類学とは何か

4.本研究のアプローチ法

第 1 章:「アグー」をめぐる現状―「アグー」とは何か

1－1　メディアの中の「アグー」

1－2　観光資源としての「アグー」

1－3　ブランド豚としての「アグー」

1－4　品種としての「アグー」

第 2 章:沖縄養豚の歴史

2－1 統計資料からみた沖縄養豚の時代区分

2－2　琉球王国時代の養豚―養豚の導入と「在来種」の形成

2－3　明治～戦前(昭和 19 年)の養豚―「養豚県」沖縄の確立と「在来種」の改良

2－4 沖縄戦後(1945～1960)の養豚―沖縄養豚の壊滅と復興

2－5　1960 年以降の養豚―沖縄養豚の近代化

第 3 章:「アーグー」保存活動の経緯―島袋正敏氏の活動(ライフヒストリー)

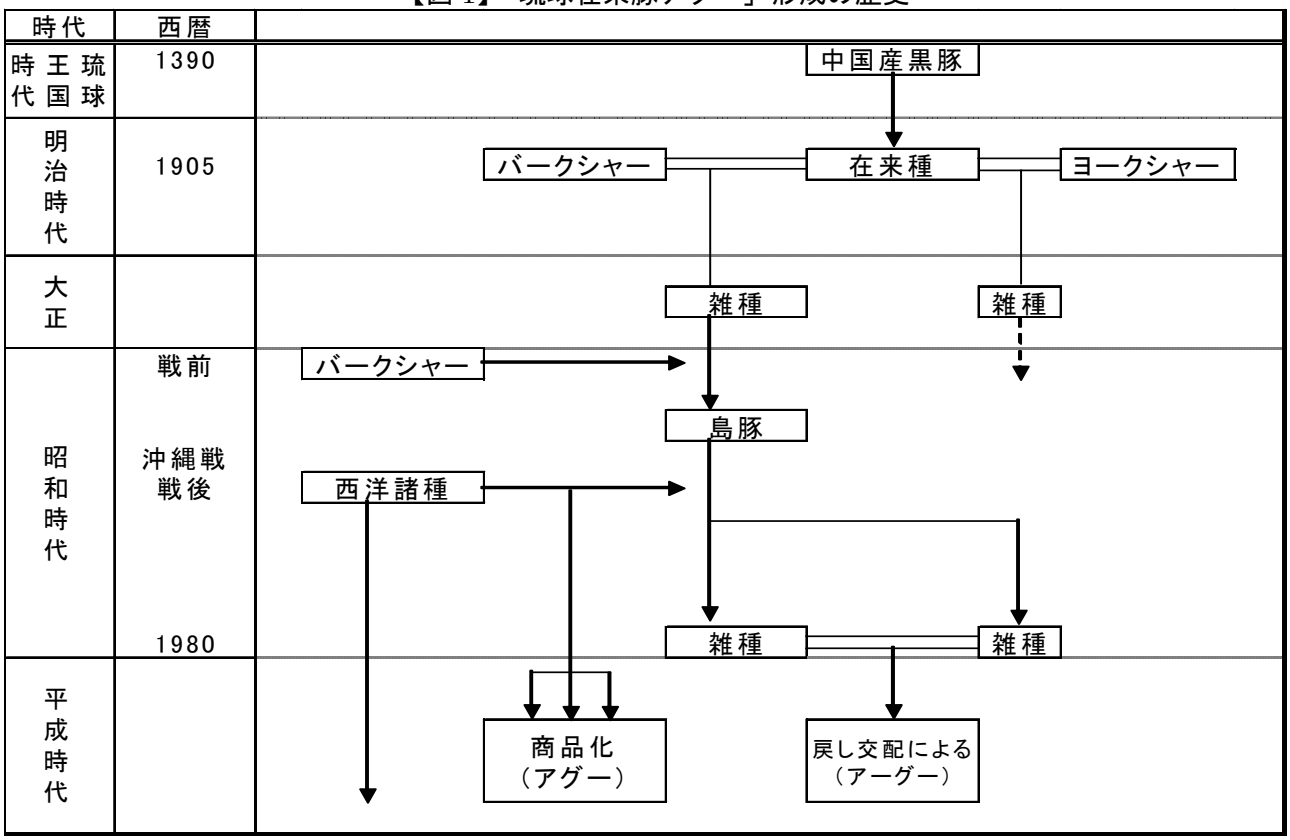
3－1　島袋氏による「アーグー」保存活動

3－2　幼年期の島袋氏が過ごした生活世界

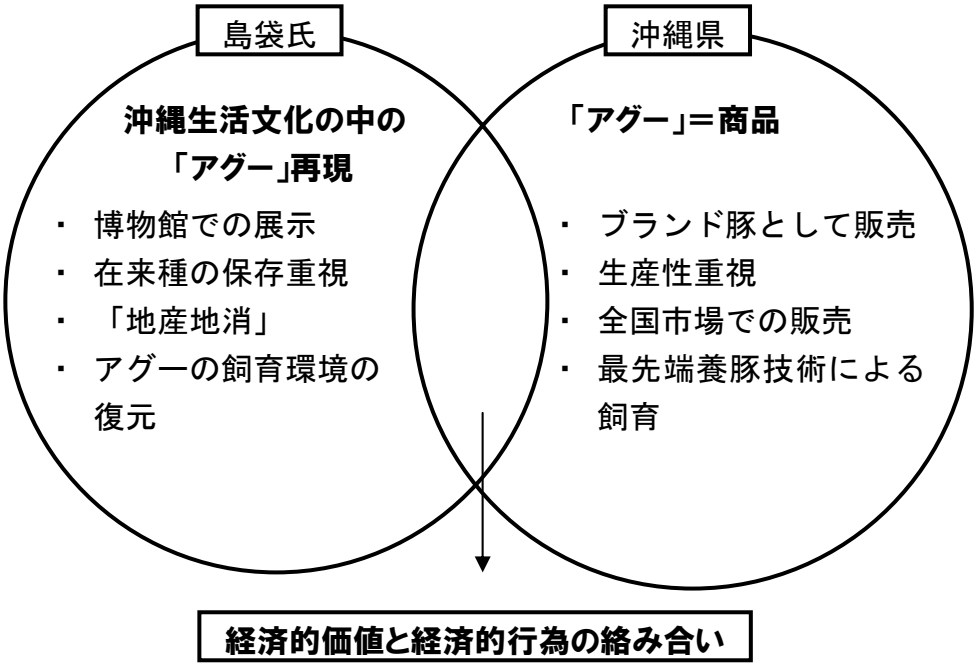
3－3　島袋氏の幼年期の養豚の歴史的位置付けと「アーグー」イメージの由来

終章:結論　創られた伝統「アグー」・利用される「アグー」

【図 1】「琉球在来豚アグー」形成の歴史



【図 2】沖縄県における「アグー」利用の絡み合い



【主要参考文献】

- 須藤健一・山下晋司・吉岡政徳　1988　『歴史のなかの社会』　弘文堂
- R.ワグナー著　山崎美恵･谷口佳子訳　2000　『文化のインベンション』　玉川大学出版部
- 吉岡政徳　2000　「歴史にかかわる人類学」　pp.3-33:吉岡政徳・林勲男編『国立民族学博物館研究報告別冊 21 号』:国立民俗学博物館
- 島袋正敏　1989　『沖縄の豚と山羊―生活の中から』　ひるぎ社
- R.ゴールドシュミット著　平良研一・中村哲勝訳　1981　『大正時代の沖縄』　琉球新報社
- 2005 「特集　琉球在来豚アグー」:『OKINAWA STYLE MAGAZINE　うるま　vol.85』: 沖縄教版
- その他、沖縄県市町村史